

女性社会論 a

(3年 前期 2単位)

須賀 由紀子

授業のテーマ・目標

20世紀の産業社会のもたらした豊かな暮らしの一方で、次のステージの暮らしの鍵は、生命と愛をキーワードに、環境にやさしい暮らし方を、一人一人が高い意識を持って作っていくことにある。こうした時代の中で、新しい命を生み出す性である女性の意識が、これからの暮らしの質に大きくかかわっていく。「女性こそ生活文化の担い手」という三木清が残した言葉を、どのように新たに捉え直し、これからの暮らしを築いていくべきだろうか。男性も女性も、仕事と余暇と家庭をバランスさせて、「自分らしく、人間らしい暮らし」を築いていこうとする社会の中で、何を拠り所に「人間らしく生きる」という人生を考えていけばよいのだろうか。この授業では、女性としてのよりよい生き方を歴史の中に学びながら問題提起する。一生活者として、また保育者・教育者として子どもに関わる立場から、女性と生活文化の関わりを考えてみたい。

授業の内容

1. オリエンテーション (問題提起)
2. ターシャ・テューダの暮らしへの愛
3. 自然生活を希求する現代の心の渇き
4. マザー・テレサの仕事とその本質
5. 「社会的母性」を考える
6. 岡本かの子にみる女性力
7. 美人画の中の女性像
8. 神話が語る「御祖神 (みおやがみ)」
9. 古代歌謡にみる「いろごみの女」
10. 妬心深き女性とその本質
11. 万葉歌の中にみる日本の女性
12. 「水の女」という文化
13. 月と女性の文化
14. 男性的創造と女性的創造
15. まとめ：「女性社会」への期待

準備学習

毎回の授業ノートをよく復習の上、授業にのぞむこと。

テキスト・教材

必要に応じて配布する。

成績評価の方法・基準

期末レポート70%、平常点30%

参考書

『国境を越えた源氏物語』(PHP)